

[130/131]語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4771868>

出版情報：語文研究. 130/131, 2021-06-02. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

目次

高山倫明教授略歴

高山倫明教授著作目録

辛島正雄教授略歴

辛島正雄教授著作目録

仮名文書の資料性——讓状の定型的表現から——……………辛島美絵 1

一九六〇年代までの助動詞「めり」の意味解釈
——「推量」と「婉曲」の歴史的経緯——……………山下和弘 17

平安時代における「静態動詞」の一形式
——動詞「すむ（澄・清）」の意味用法——……………森脇茂秀 35

『古事記』の「カムガカリ」——「託・著（着）」を用いない表現のあり方——……………藤崎祐二 52

『伊勢物語』第二十三段「くらべこし」歌再考……………後藤康文 64

詩人が生涯を振り返る時——平安朝文人と「与元九書」——……………木戸裕子 73

| | | |
|----------------------------------|-------|-----|
| 『新撰和歌六帖』における『古今和歌六帖』 出典未詳歌の受容と継承 | 福田智子 | 85 |
| 王昭君説話の語り方 | 田村隆 | 102 |
| 「運ぶ」伊勢と「書く」伊勢——版本『伊勢物語』にみる伊勢図像 | 日高愛子 | 119 |
| 『栄花物語』正編の引歌表現——諸行無常への導き | 二宮愛理 | 131 |
| 『うつほ物語』俊蔭と仲忠とを結ぶもの——「君子不器」の理想 | 余鴻燕 | 144 |
| 『狭衣物語』における『枕草子』受容の再検討 | 閻紹婕 | 157 |
| 瘤取り爺の芸能——滑稽譚として読む宇治拾遺物語第三話 | 大木桃子 | 172 |
| 『在明の別』の内大臣は「嫡子」なのか | 宮崎裕子 | 185 |
| 『在明の別』における男装の姫君の苦悩とその対処としての教育 | 小松明日佳 | 199 |
| 黄表紙の「大通」——その作品と用例 | 園田豊 | 213 |
| 江戸幕臣文壇と荷田在満 | 久保田啓一 | 226 |
| 『淡窓詩話』と『醒斎語録』 | 高橋昌彦 | 238 |
| 「つれづれ」とは何か・補説 | 川平敏文 | 249 |

| | | | |
|--|----|----|---------------|
| 礫川南嶺・東船笑登満人・十字亭三九に関する再考察…………… | 康 | 志賢 | 264 |
| 国学者の絵巻模写——長沢伴雄稿『年中行事画巻略』を中心に——…………… | 亀井 | 森 | 280 |
| 外寇調伏の祈りと幕末の神風歌…………… | 吉良 | 史明 | 294 |
| 小津久足と本居大平——大平添削への反駁…………… | 菱岡 | 憲司 | 311 |
| 注釈書の整備 ——『和漢朗詠集』を例として…………… | 村上 | 義明 | 326 |
| 太宰治作品における「語り手」の問題——中期作品を中心に——…………… | 長野 | 秀樹 | 342 |
| 太宰治「黄金風景」論——戦争を軸とした解釈——…………… | 河内 | 重雄 | 354 |
| 松本清張「断碑」の起源とその意義…………… | 松本 | 常彦 | 371 |
| ヘミングウェイ「老人と海」と安達征一郎「祭りの海」 ——カリブ海とトカラ列島のトポロジー——…………… | 松下 | 博文 | 388 |
| 長崎県佐世保市宇久町平方言の「進行」の「オル」…………… | 門屋 | 飛央 | 413 (三四) |
| 日本語における品詞判別上の諸問題・統紹…………… | 張 | 愚 | 423 (三四) |
| 鹿児島方言における格助詞ガ・ノの分布 ——近現代の談話とロシア資料を対象に——…………… | 久保 | 蘭 | 愛 440 (三七) |

本文から見た『新訳華嚴経音義私記』の撰述と背景……………賈 智 454(七三)

副詞「ひよつとすると」類の成立
——副詞の呼応における仮定と可能性想定分化——……………川 瀬 卓 469(六)

南琉球黒島方言と宮良方言の親族名称と呼称……………荻 野 千砂子 483(四)

長崎方言の終助詞タイの変遷について——近世近代の長崎史料を中心に——……………前 田 桂 子 501(六)

九州の大学生におけるアスペクト表現の実態……………二階堂 整 511(六)

東国文献の開音・合音・ウ段音……………江 口 泰 生 526(一)

会員著書紹介……………527

学会彙報……………537